

2022年5月期第3四半期 決算説明資料

2022年4月5日

 三協立山株式会社

業績結果

(億円)

	2022/5期 3Q9ヵ月実績	2021/5期 3Q9ヵ月実績	前年同期比(*1)		2022/5期 3Q3ヵ月実績	2021/5期 3Q3ヵ月実績	前年同期比(*1)	
			増減額	%			増減額	%
売上高	2,506	2,178	327	+15.0%	855	728	126	+17.4%
営業利益	27	25	1	+6.4%	▲ 2	5	▲ 7	-
営業利益率	1.1%	1.2%		▲0.1p				
経常利益	26	31	▲ 4	-	▲ 1	7	▲ 8	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3	10	▲ 7	-	▲ 6	2	▲ 8	-

※金額は億円未満切り捨て表示、率は四捨五入表示

(*1)2022/5期より「収益認識に関する会計基準」等を適用、前年同期比は参考値として記載

✓ 3Q9ヵ月実績 前年同期比増収増益

✓ 売上高は全事業において増収 約327億円

停滞していた経済活動が緩慢ながらも持ち直しの動きが続いたことや、アルミ地金市況に連動する売上増加などにより増収。

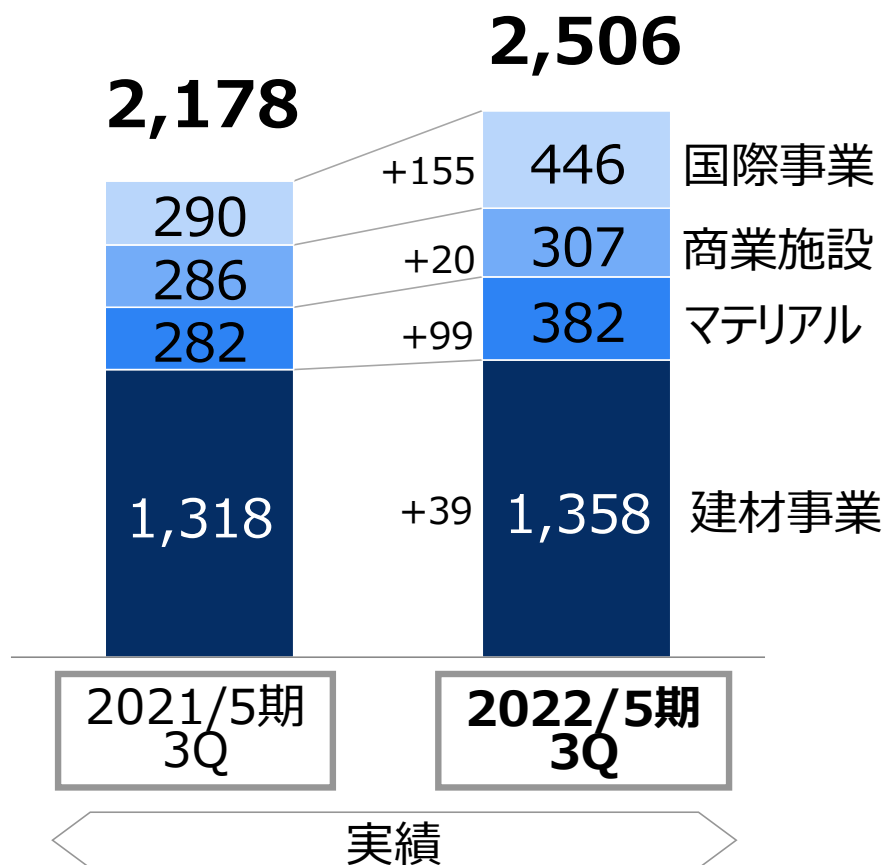
✓ 営業利益は 約1億円増益

諸資材価格高騰の影響を受けたものの、売上の増加や、コスト削減に努めたことにより増益。

売上高

2,506 億円

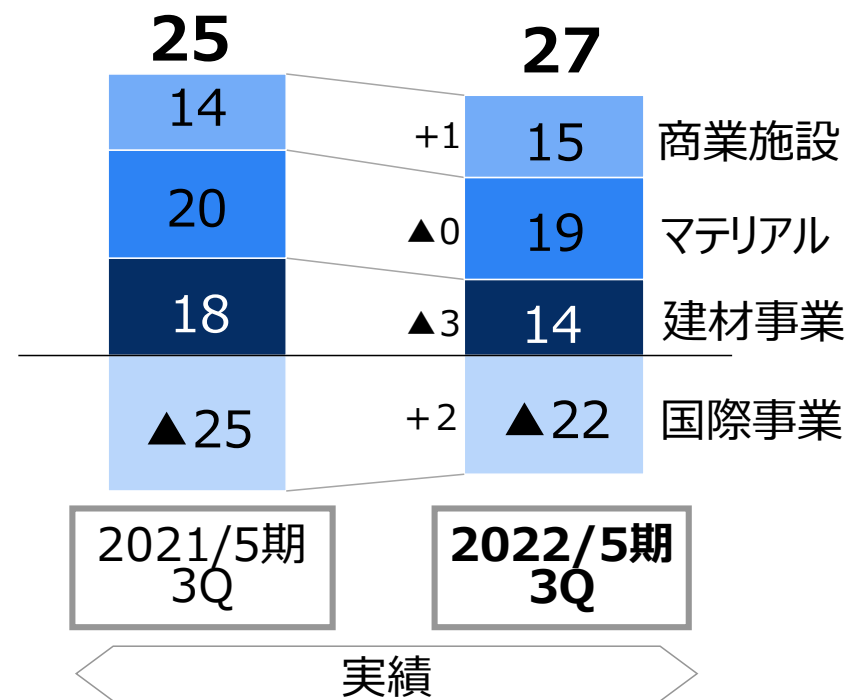
前年同相比 +327 億円
(+15.0%)



営業利益

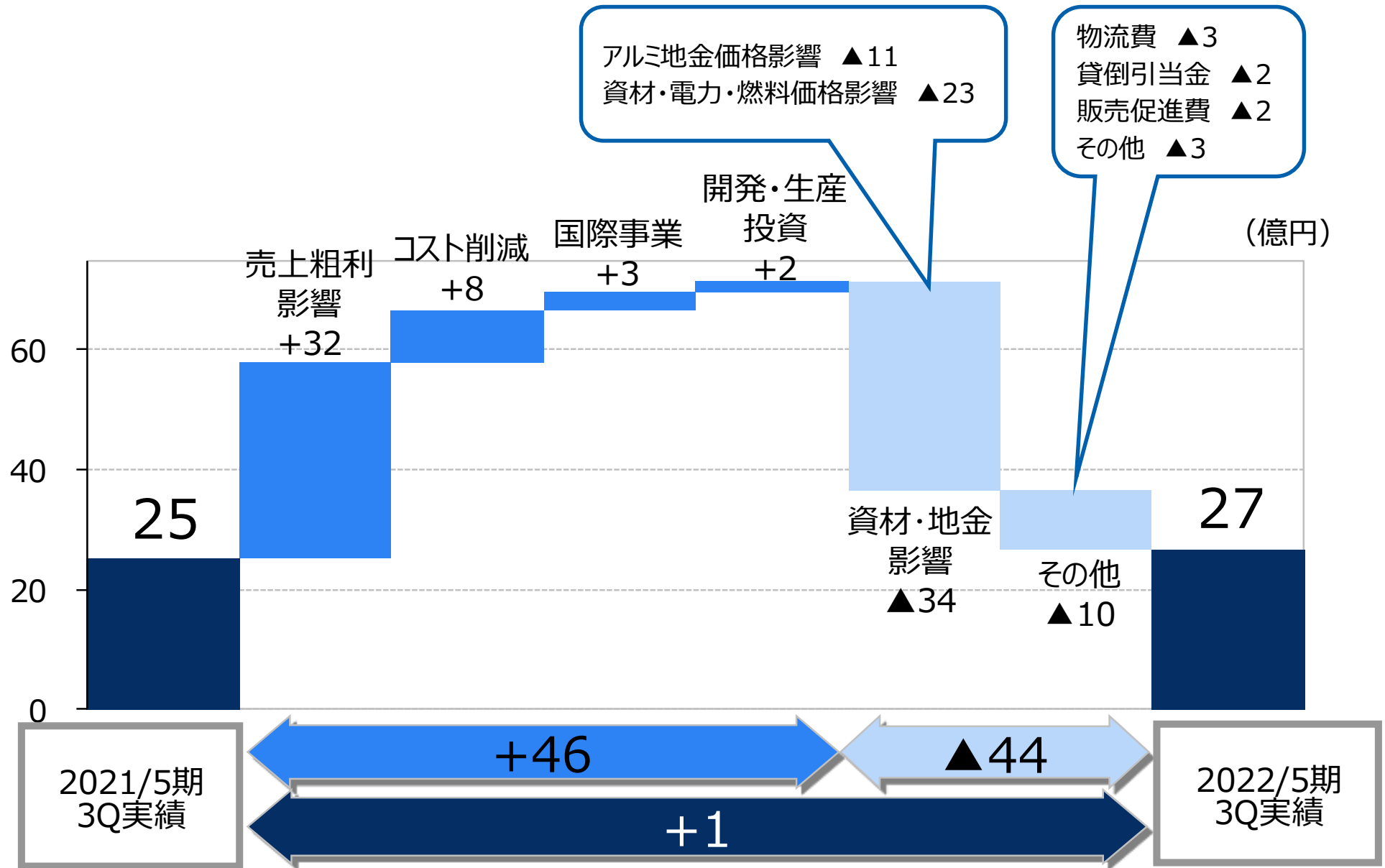
27 億円

前年同相比 +1 億円
(+6.4%)



※金額は億円未満切り捨て表示

2022/5期第3四半期 営業利益 増減要因 (9ヵ月実績 前年同期比) 三協立山



※国際事業に係る利益増減については、「国際事業」に集約
 ※金額は億円未満切り捨て表示

トピックス



植物工場システム「agri-cube ID(アグリキューブ・アイディー)」 大型植物工場に納入 株式会社ベジタブルテック様

「agri-cube ID」：植物工場の「建設」から「栽培・運営サポート」までワンストップサービスを提供する植物工場システム



大和ハウス工業株式会社様（以下、大和ハウス工業）が、株式会社ベジタブルテック様の植物工場を新築。

三協立山は、植物工場設備の建設を請け負い、栽培技術・運用技術サポートを行う。

建設場所	茨城県那珂市
延床面積	4,938.5㎡
操業開始	2022年5月より
栽培品目	葉菜類（グリーンリーフ・フリルレタスなど）
栽培規模	2.25トン/日(フリルレタス 200g/株 換算で11,250株/日)

今後も、当社は大和ハウス工業と協業で、企業様の新規事業創出提案、遊休不動産活用提案、自治体・農業生産法人の新たな農業事業創出提案などのご提案を行い、2026年度には年間5棟の植物工場「agri-cube ID」の導入を目指す。





三協立山「健康経営優良法人2022（大規模法人部門）」
ST物流サービス「健康経営優良法人2022（中小規模法人部門（ブライツ500））」認定

（主催：経済産業省および日本健康会議）

従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる法人として認定

三協立山



2022
健康経営優良法人
Health and productivity

「三協立山健康宣言」を策定し、ワーク・ライフ・バランスの推進に加え、多様な人材が活躍できる風土作りを強化

※ 2年連続認定（2021年度はホワイト500に認定）

子会社 ST物流サービス



2022
健康経営優良法人
Health and productivity
ブライツ500

「健康経営宣言」を策定し、従業員が心身ともに安全で働きやすく、働きがいがあると感じる職場づくりを目指す

ブライツ500：中小規模法人部門のうち上位500社が認定される

TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース） 提言への賛同を表明

13 気候変動に
具体的な対策を



16 平和と公正を
すべての人に



2021年12月、TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)^{※1}の提言に賛同を表明

当社は、長期的に目指す方向として2021年に『サステナビリティビジョン2050 Life with Green Technology～「環境技術でひらく、持続可能で豊かな暮らし」を実現する企業グループへ～』を策定。また、2021年7月に発表した「VISION2030」において、重点戦略の1つに「サステナブルで豊かな暮らしに貢献～環境に配慮した、安心して快適な社会の実現へ～」を掲げており、事業活動に伴う温室効果ガスの排出量削減や主要原材料アルミニウムの循環使用の促進、廃棄物の再資源化を推進。

今後は、TCFD提言に沿って、気候変動に関するリスクと機会が当社の事業活動、経営戦略、財務計画に与える影響について、必要なデータの収集と分析を行い、開示内容を充実させる予定。

当社はこれからも、さまざまな企業活動を通じて、サステナブルで豊かな暮らしに向けた社会づくりに貢献してまいります。

※1 G20からの要請を受け、金融安定理事会（FSB）が2015年に設立した機関。気候変動によるリスク及び機会が経営に与える財務的影響を評価し、ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標について開示することを推奨している。

3 すべての人に 健康と福祉を	9 産業と技術革新の 基盤をつくらう	12 つくる責任 つかう責任

✓ 玄関用収納網戸

6～2月 累計売上
前々年比**108%**



「アコーディオン網戸」 「てまノン網戸」

既存の玄関ドアや引戸に取り付けて風を採り入れる。「てまノン網戸」は丸洗いできるのでいつもキレイ。

✓ テラス囲い

6～2月 累計売上
前々年比**117%**



「晴れもようwith」

「風の流れ」をデザインし、より楽しくより快適なランドリースタイルを提案。

✓ ガーデンルーム

6～2月 累計売上
前々年比**224%**



「ハッピーナリラ」

日中からナイトシーンまで快適なリラックス空間を。

✓ 自然換気システム

2021年10月
強化・リファイン



「キャブコン」

風の流れをコントロールするスリット。強風を受けやすい高層のビル・集合住宅にも取り付けられ、防火地域・準防火地域でも使用可能。

✓ 宅配ボックス

6～2月 累計売上
前々年比**177%**



「フレムス/ フレムスLight」

不在時でも在宅中でも配達員と接触せずに宅配便を受け取り可能。

✓ インテリア建材

6～2月 累計売上
前々年比**117%**



「AMiS」

在宅でのリモート空間を確保する可動パーテーション。

✓暴風雨に耐える 高耐久性

2021年5月
強化・リファイン



「アルジオ耐風圧性能S-5」

大型台風やゲリラ豪雨に負けない、タフな性能。
安全性能をさらに強化。

✓飛来物から 窓を守る

6~2月 累計売上
前々年比**111%**



「シャッター」

飛来物や強風による窓ガラスの割れを防ぎ、安心できる住まいを提供。

✓耐積雪量・耐風圧 性能の増強

6~2月累計売上
前々年比**124%**



「G1-R」

地域の積雪量に合わせた強度設計で、強風時における折板の吹き上げや本体の揺れを抑えるさまざまな工夫。

✓免震商品

6~2月累計売上
前々年比**172%**



「URAYNUS (ユレイナス)」

店舗什器の下に敷くだけで、陳列商品が棚から落ちにくくなる。ビンモノ商品の破片によるケガ防止や、避難導線の確保など、人的被害の軽減が可能。

✓強風に負けない大型伸縮門扉

6~2月累計売上
前年比**373%**

「アルテンダフォルテ」

強風時でも扉を全閉状態で使用可能。



3 すべての人に 健康と福祉を	9 産業と技術革新の 基盤をつくらう	11 住み続けられる まちづくりを	12 つくる責任 つかう責任

✓求められる性能すべて を、ハイスペックに

6~2月累計売上
前々年比**160%**



「MTG-70R 高性能」

予測不能な自然の変化、持続可能な社会の実現。

耐風圧性 4500Pa	水密性 1500Pa	遮音性 T-3	断熱性 H-3
----------------	---------------	------------	------------

参考資料

	対象期間	2019年	2020年	2021年
【建材事業（住宅）指標】 新設住宅着工戸数	4月-12月	69.0万戸 (6.5%減)	62.1万戸 (10.0%減)	66.5万戸 (7.2%増)
新設住宅着工戸数 [持家]	4月-12月	22.3万戸 (0.5%増)	20.1万戸 (10.0%減)	22.4万戸 (11.2%増)
新設住宅着工戸数 [貸家]	4月-12月	26.1万戸 (15.5%減)	23.3万戸 (10.8%減)	25.2万戸 (8.1%増)
【建材事業（ビル）指標】 非木造建築物着工床面積	4月-12月	54.8百万㎡ (5.7%減)	48.6百万㎡ (11.2%減)	53.3百万㎡ (9.5%増)
【マテリアル事業指標】 アルミ形材押出重量[サッシ・ドア除く]	6月-2月	26.2万 t (2.7%減)	23.8万 t (9.3%減)	24.5万 t (3.1%増)
【商業施設事業指標】 建築着工棟数[店舗(民間建築主)]	4月-12月	5,076棟 (13.2%減)	3,862棟 (23.9%減)	4,208棟 (9.0%増)
【国際事業指標】 ドイツ自動車生産台数	4月-12月	339.7万台 (8.0%減)	249.6万台 (26.5%減)	218.7万台 (12.4%減)
タイ自動車生産台数	4月-12月	145.2万台 (10.8%減)	97.4万台 (32.9%減)	121.7万台 (25.0%増)
【アルミ地金価格平均値】 [日本経済新聞より]	6月-2月	244.0円/kg	244.6円/kg	379.3円/kg

() は前期比

※金額は億円未満切り捨て表示

売上高

	3ヵ月実績				実績累計 (億円)			
	'21/5期	'22/5期	増減(*1)		'21/5期	'22/5期	増減(*1)	
1Q	410	421	+11	+2.7%				
2Q	472	484	+12	+2.7%	882	906	+23	+2.7%
3Q	435	451	+16	+3.7%	1,318	1,358	+39	+3.0%
4Q	488				1,806			
					'22/5期通期計画		1,880	

- ・建築着工が堅調に回復を続けていること
- ・好調なマンションなどのリフォーム需要を取り込んだこと
- ・イエナカ生活、換気・非接触対応商品などの需要が増加したことなど

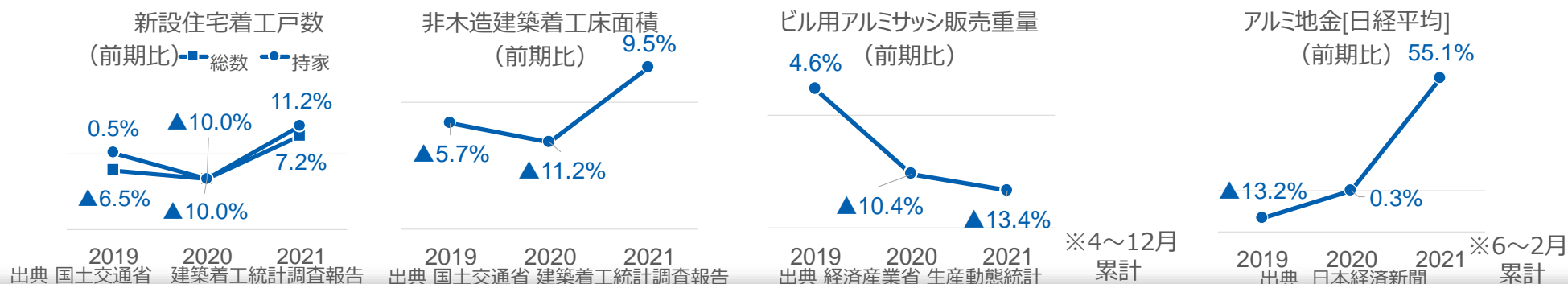
セグメント利益

	3ヵ月実績				実績累計 (億円)			
	'21/5期	'22/5期	増減(*1)		'21/5期	'22/5期	増減(*1)	
1Q	▲0	4	+5	-				
2Q	14	12	▲2	-	14	17	+2	+20.8%
3Q	4	▲2	▲6	-	18	14	▲3	-
4Q	18				37			
					'22/5期通期計画		24	

- ・収益改善を進めたが、アルミ地金などの原材料価格高騰影響など

(*1)2022/5期より「収益認識に関する会計基準」等を適用、増減額、増減率は参考値として記載

事業環境



※金額は億円未満切り捨て表示

売上高

	3ヵ月実績				実績累計			
	'21/5期	'22/5期	増減(*1)	増減率(*1)	'21/5期	'22/5期	増減(*1)	増減率(*1)
1Q	78	119	+40	+52.1%				
2Q	100	126	+26	+25.9%	179	246	+66	+37.4%
3Q	102	135	+32	+32.0%	282	382	+99	+35.4%
4Q	114				396			
						'22/5期通期計画	475	

- ・半導体製造装置向けの活況な設備投資を背景とした好調な受注
- ・アルミ地金市況に連動する売上増加

セグメント利益

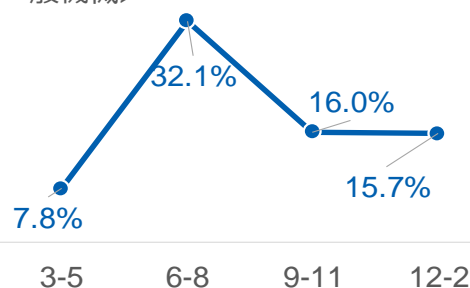
	3ヵ月実績				実績累計			
	'21/5期	'22/5期	増減(*1)	増減率(*1)	'21/5期	'22/5期	増減(*1)	増減率(*1)
1Q	2	10	+8	+360.3%				
2Q	10	5	▲4	-	12	16	+3	+30.6%
3Q	8	3	▲4	-	20	19	▲0	-
4Q	5				25			
						'22/5期通期計画	22	

- ・燃料価格や添加金属などの原材料価格高騰の影響

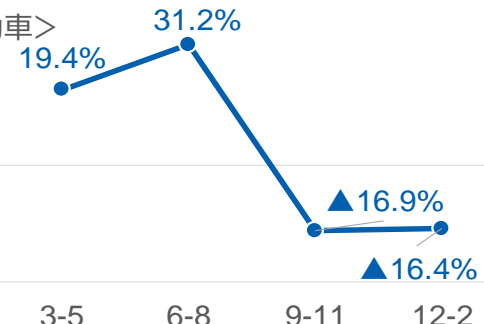
(*1)2022/5期より「収益認識に関する会計基準」等を適用、増減額、増減率は参考値として記載

国内アルミ型材押出重量 (前年同期比)

<一般機械>



<自動車>



出典 日本アルミニウム協会統計

事業環境

※金額は億円未満切り捨て表示

売上高

	3ヵ月実績				実績累計			
	'21/5期	'22/5期	増減(*1)		'21/5期	'22/5期	増減(*1)	
1Q	85	95	+10	+11.9%				
2Q	114	111	▲2	-	199	206	+7	+3.7%
3Q	86	100	+13	+15.2%	286	307	+20	+7.2%
4Q	102				388			
						'22/5期通期計画	375	

- ・店舗建築着工が回復基調にあること
- ・積極的に投資を行っている流通小売業を中心に、既存店改装需要を取り込んだことなど

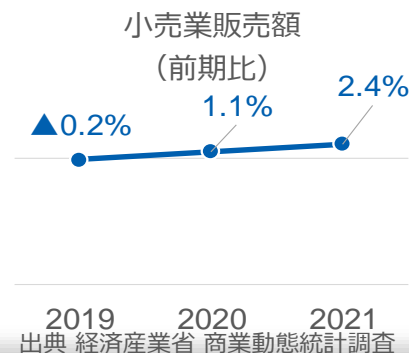
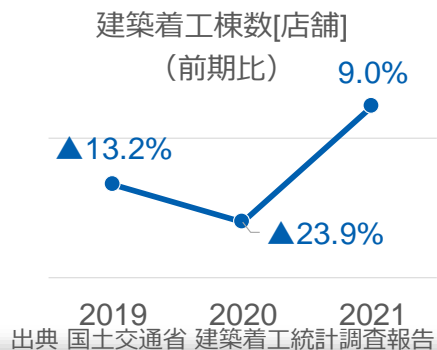
セグメント利益

	3ヵ月実績				実績累計			
	'21/5期	'22/5期	増減(*1)		'21/5期	'22/5期	増減(*1)	
1Q	2	3	+1	+65.6%				
2Q	8	6	▲1	-	10	10	▲0	-
3Q	3	5	+1	+45.3%	14	15	+1	+10.4%
4Q	6				20			
						'22/5期通期計画	9	

- ・鋼材などの原材料価格高騰の影響を受けたものの、売上増加や業務効率の改善を進めたことなど

(*1)2022/5期より「収益認識に関する会計基準」等を適用、増減額、増減率は参考値として記載

事業環境



※金額は億円未満切り捨て表示

売上高

	3か月実績				実績累計			
	'21/5期	'22/5期	増減(*1)	増減率	'21/5期	'22/5期	増減(*1)	増減率
1Q	89	144	+55	+61.9%				
2Q	98	143	+44	+44.8%	187	287	+99	+52.9%
3Q	102	158	+55	+54.1%	290	446	+155	+53.3%
4Q	127				418			
						'22/5期通期計画	455	

- ・欧州で機械分野など販売物量の増加や電気自動車需要が高まったこと
- ・タイで自動車分野を中心に好調に推移したこと
- ・アルミ地金市況に連動する売上増加や為替影響など

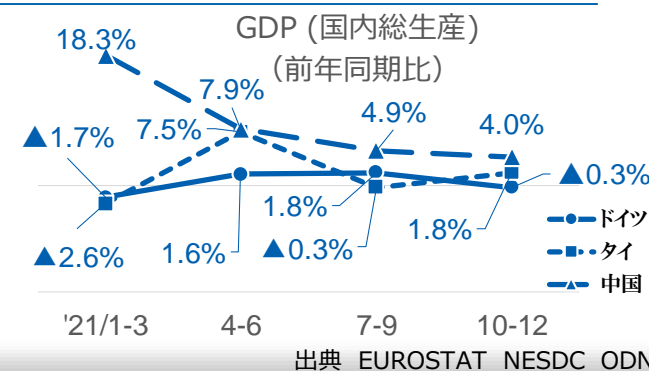
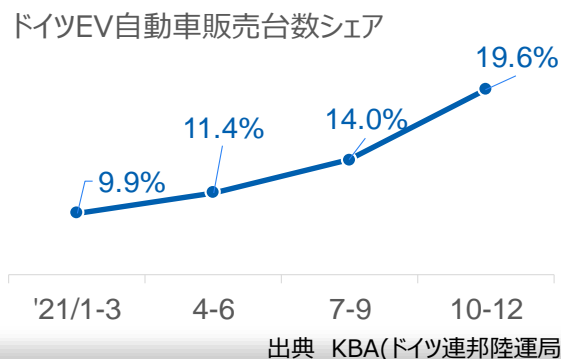
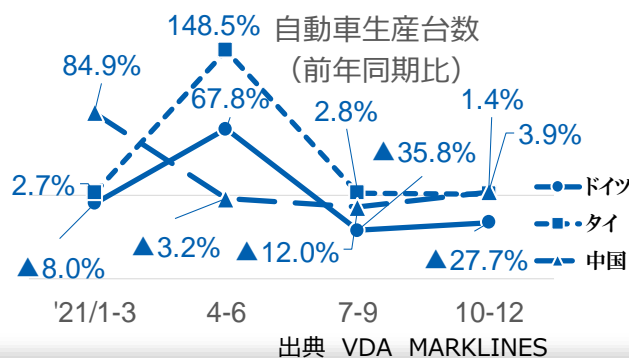
セグメント利益

	3か月実績				実績累計			
	'21/5期	'22/5期	増減(*1)	増減率	'21/5期	'22/5期	増減(*1)	増減率
1Q	▲6	▲4	+2	-				
2Q	▲9	▲8	+1	-	▲15	▲12	+3	-
3Q	▲9	▲10	▲0	-	▲25	▲22	+2	-
4Q	▲10				▲35			
						'22/5期通期計画	▲17	

- ・燃料価格や原材料価格高騰の影響を受けたものの、売上の増加や、タイでの販売構成の改善など

(*1)2022/5期より「収益認識に関する会計基準」等を適用、増減額、増減率は参考値として記載

事業環境



【 計画前提・実績 】

		期中 平均値	2021/5期 3Q9ヵ月実績	2022/5期 前提（通期）	2022/5期 3Q9ヵ月実績
アルミ地金価格 (日本経済新聞)		6~2月	244.6円/kg	325.0円/kg	379.3円/kg
為替	ドル	4~12月	106.1円	110.0円	111.1円
	ユーロ	4~12月	122.4円	127.0円	130.6円
	バーツ	4~12月	3.4円	3.5円	3.4円
	元	4~12月	15.4円	16.3円	17.3円

サステナビリティビジョン2050 Life with Green Technology

～「環境技術でひらく、持続可能で豊かな暮らし」を実現する企業グループへ～

カーボンニュートラルへの挑戦
事業活動に伴う温室効果ガス排出削減と、環境技術で創出する商品・サービスによる温室効果ガス排出削減とのバランスにより、カーボンニュートラルを目指す。

資源の循環
循環型社会の実現に向けて、主要原材料の循環使用の促進と、廃棄物の再資源化を推進。

人財を未来へつなぐ
多様性や人権を尊重し人材育成を推進することで活力ある企業風土を創出し、豊かな暮らしを実現する原動力となる「人財」を未来につなぐ。

2030年目標

温室効果ガス排出量
2013年度比で50%削減
対象：国内グループScope1+2

循環アルミの使用を促進

女性管理職比率 10%

E 環境

S 社会

G ガバナンス

【本資料に関する注意事項】

本資料に記載されている内容には、三協立山株式会社及び連結子会社（以下、総称して「三協立山グループ」という）の計画、戦略、業績などの将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、現時点で入手可能な情報から得られた三協立山グループの仮定や判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性及びその他の要因が内在しています。それらの影響により、三協立山グループの実際の業績、事業活動、財務状況は、これらの見通しと大きく異なる場合があります。また、新たな情報、将来の事象、その他にかかわらず、三協立山グループが将来の見通しに関する記述を見直すとは限りません。なお、業績など実際の結果に影響を与えるリスク、不確実性及びその他の要因としては、三協立山グループの事業領域を取り巻く経済情勢、三協立山グループの製品やサービスの需要動向の変化や価格競争の激化、為替相場、アルミ地金等の価格変動が挙げられますが、これらに限られるものではありません。

本資料の複製・転載はお断りします。